

和木町における中核機関の後見人支援

～事例を通して考える～



和木町役場保健福祉課 和木町地域包括支援センター
社会福祉士 岩下めぐみ
令和4年9月2日(金)

和木町について

令和4年4月1日現在

総人口	6,041人	(総人口に占める割合)
65歳以上人口	1,744人	28.8%
75歳以上人口	908人	15.0%



◆地域包括支援センター

町の直営で役場内に1カ所設置

保健師1名、社会福祉士3名(うち1名は非常勤)

(うち3名が介護支援専門員の資格あり)

権利擁護相談(成年後見関係含む)は

社会福祉士2名が他業務と兼務して対応

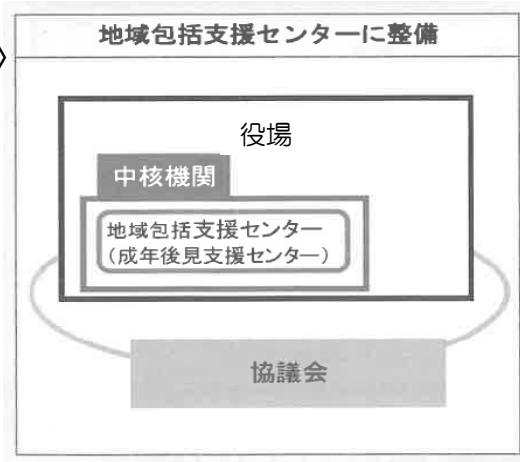
◆社会福祉協議会

日常生活自立支援事業を担う



和木町の中核機関（成年後見支援センター）

〈イメージ図〉



地域包括支援センター

成年後見支援センター

ア.
権利擁護支援の必要
なケースを**早期に
発見**

イ.
チームを形成
ケース会議を開催

ウ.
協議会を開催
チームを支援

エ.
チーム支援
から
課題を蓄積

地域課題

家庭裁判所との連携

既存の
会議で協議

チーム

本人、家族、包括、看護師、警察
ケアマネジャー、民生委員
介護サービス事業者等

協議会

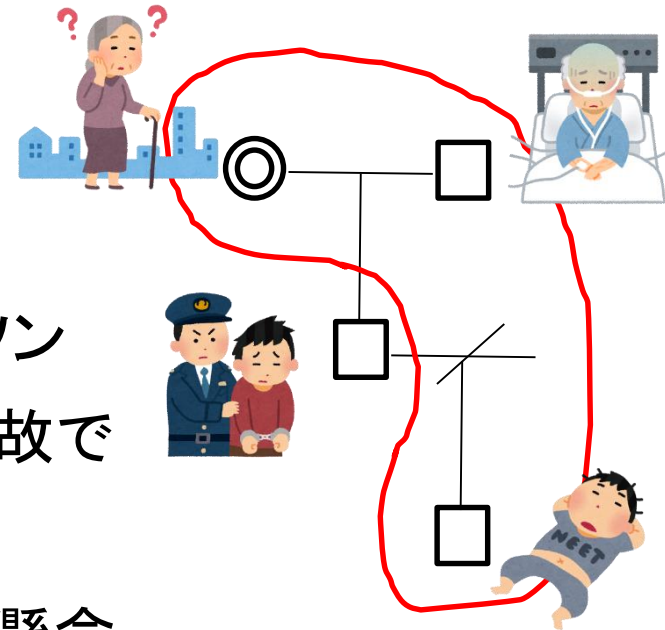
成年後見
支援センター十

弁護士
司法書士
社会福祉士

- ①成年後見制度利用促進
- ②受任調整会議
- ③後見人支援

事例を通して考える「協議会」のチーム支援 (事例の概要)

- 本人(80歳代女性)、夫、息子、孫の4人世帯のケース。
- 重度の認知症の本人を支えるキーパーソンとしてこれまで夫が支えてきたが、交通事故で寝たきりに。
- また、息子による本人への経済的虐待も懸念。
- このため、無職の孫を新たなキーパーソンとして、状況に合わせたチームを構成しながら、弁護士・司法書士・社会福祉士が参画する協議会によりチーム支援を実施したケース。



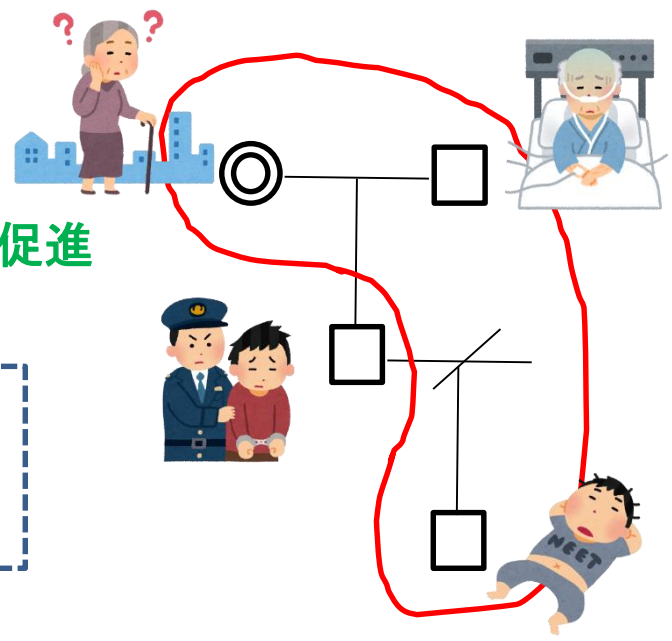
事例を通して考える 協議会 のチーム支援①

協議会① 成年後見制度利用促進

- 孫
- ケアマネジャー
- 弁護士
- 司法書士
- 社会福祉士
- 成年後見支援センター

警察、民生委員
介護サービス事業所
病院と連携

▶ 成年後見制度利用の必要性
について助言



協議会② 受任調整会議

- 孫
- ケアマネジャー
- 弁護士
- 司法書士
- 社会福祉士
- 成年後見支援センター

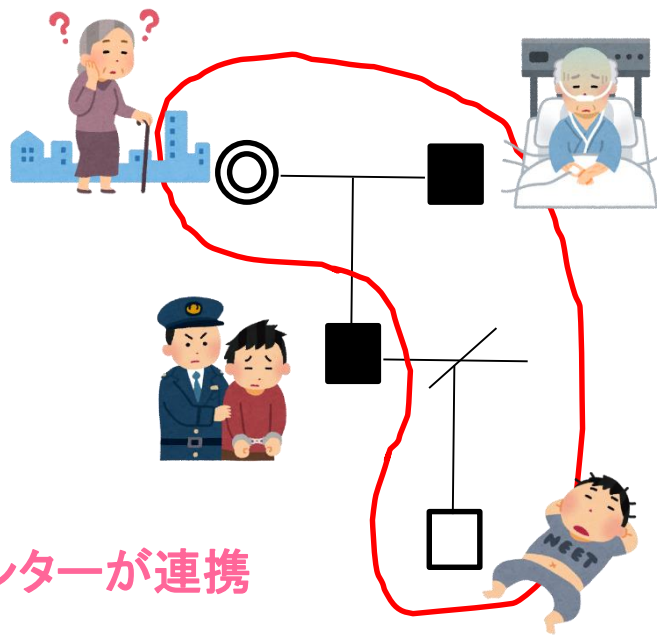
▶ 申立人、後見人候補者
について助言

孫が祖父母の申立人になって申立てる。申立て事務をセンターが支援。

祖父の診断書作成に2か月かかった。その間に、祖父の状態が変わってしまった。



事例を通して考える **協議会** のチーム支援



家庭裁判所と 成年後見支援センターが連携

- ・本人の状況確認
 - ・状況に合わせた対応
 - ・審判決定の連絡
 - ・後見人への橋渡し
 - ・見通しへの助言
- 支援の方向性が見えてきた！

協議会③ 後見人支援

孫
ケアマネジャー
後見人
弁護士
司法書士
社会福祉士
成年後見支援センター

▶後見人の支援について助言

祖父の状態変化→審判保留

祖母の審判が決定し、抗告期間中に息子、祖父が死亡。
祖母の後見人は社会福祉士。

死亡後の手続きを急ぐため、抗告期間中に後見人とやり取りができるように、家裁か仲介。

家裁と連携できて心強かった！



成年後見支援センターの後見人支援

後見人選任後、センター職員で対応できるもの

支援内容	センター職員の対応
<ul style="list-style-type: none">・ ケースの課題整理・ 被後見人等との関係づくり・ 関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none">・ 初回面接前に情報提供・ 後見人の初回面接に同席・ 関係機関への連絡

権利擁護支援の地域連携ネットワークにおける協議会での後見人支援

申立て当初と家族状況が**激変**したことによる

新たな課題

- ・ 家族支援が必要な状況
- ・ 負の相続が発生
- ・ 相続が複雑



協議会の助言

- ・ 生活費の確保
- ・ 相続放棄等
- ・ 相続整理

権利擁護支援の地域連携ネットワークにおける協議会での後見人支援

法律や福祉の専門職が一緒に考えることで、金銭の確保から介護サービスの組み立て等の支援の方向性を示すことができた。

家庭裁判所
と連携

ネットワーク協議会

後見人
孫(申立人)
ケアマネジャー
弁護士
司法書士
社会福祉士
成年後見支援センター

▶ 相続について助言

▶ 生活について助言

専門職との連携の大切
さがよく分かった！

必要と感じた機関とは
積極的に連携したい！



チームには柔軟に連携が必要なメンバーが加わる

地域包括支援センターが培った関係を強みに
チームと協議会を運営

中核機関が中心となって、
支援の輪をつなぐことで
専門的な支援が可能に！

形にこだわらない仲間づくりを！



和木町成年後見支援センターPRキャラクター